

2011 年度前期「社会経済学初級 α」 定期試験問題

I

ある星のある島では、資本主義経済体制がとられており、生産手段である「機械」(単位は「台」)と、消費財である「食糧」(単位は「食」)の二種類の財が存在する。労働雇用人口は、6 万人であり、翌年には追加して 4500 人まで雇用しても過剰人口が逼迫しないものとする。労働者は賃金から「食糧」だけを手に入れ、資本家は利潤を消費せずすべて蓄積にまわして「機械」を買うものとし、この両方で純生産物は分配されつくすものとする。

A 労働者一人当たりの年間労働時間は 1000 時間、労働者一人当たりの年間の「食糧」消費量は 200 食、「機械」1 台の純生産に必要な投入労働量は 2 万 4000 時間、「食糧」1 食の純生産に必要な投入労働時間は 3 時間、「機械」1 台利用するために年間 3000 時間の労働を雇用する必要があるとする。

このとき、年間の「食糧」生産は(a)万食必要だから、それを純生産するために直接間接に必要な労働は、(b)万時間となる。総労働時間は(c)万時間だから、残り(d)万時間が、「機械」(e)台の純生産のために投入される。機械 1 台利用するのに雇用すべき労働者数は、(f)人だから、このために、翌年には(g)人が追加して雇用されることになる。

このとき、労働者一人当たりの年間労働時間のうち、必要労働は(h)時間、剰余労働は(i)時間であるから、搾取率は(j)%となる。

上記、(a)～(j)にあてはまる数値を次の数値群(ア)～(ツ)から一つずつ選び、その記号を記入せよ。

- |          |          |          |          |          |          |
|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| (ア) 1    | (イ) 2    | (ウ) 3    | (エ) 33.3 | (オ) 50   | (カ) 66.7 |
| (キ) 300  | (ク) 400  | (ケ) 500  | (コ) 600  | (サ) 1000 |          |
| (シ) 1200 | (ス) 2000 | (セ) 2400 | (ソ) 3000 | (タ) 3600 |          |
| (チ) 4000 | (ツ) 6000 |          |          |          |          |

B 上記 A では、翌年過剰人口を余らせることになる。労働者の一人当たり消費も労働生産性も A と変わらず、なおかつ過剰人口が切迫するまで、蓄積できるまで蓄積する場合には、一人当たり労働時間が A よりも長くないといけない。

今、一人当たり年間労働時間が A よりも 1.5 倍長く、1500 時間だったとしよう。このとき、労働者の一人当たり消費は変わらずに、ちょうど蓄積できるまで蓄積できることを次のように示すことができる。

この場合、「機械」を利用するために雇用すべき労働者数は、1 台あたり (a) 人となるので、蓄積できるかぎり蓄積すると、「機械」の純生産量は (b) 台となる。労働生産性は A と変わらないので、「機械」をこれだけ純生産するために必要な労働量は (c) 万時間となる。ところが、この場合の総労働時間は (d) 万時間だから、「食糧」の純生産のために投入される労働量は、(e) 万時間となる。やはり労働生産性は A と変わらないので、純生産される「食糧」の量は (f) 万食となり、労働者一人当たりになると (g) 食になる。

このとき、労働者一人当たりの年間労働時間のうち、必要労働は (h) 時間、剰余労働は (i) 時間であるから、搾取率は (j) % となる。

上記、(a)～(j) にあてはまる数値を次の数値群(ア)～(ツ)から一つずつ選び、その記号を記入せよ。

- |          |          |          |          |          |         |
|----------|----------|----------|----------|----------|---------|
| (ア) 1    | (イ) 2    | (ウ) 3    | (エ) 100  | (オ) 150  | (カ) 200 |
| (キ) 300  | (ク) 400  | (ケ) 500  | (コ) 600  | (サ) 900  |         |
| (シ) 1000 | (ス) 1200 | (セ) 2250 | (ソ) 2400 | (タ) 3600 |         |
| (チ) 5400 | (ツ) 9000 |          |          |          |         |

C 実質賃金率も労働時間も A と変わらず、なおかつ蓄積できるまで蓄積する場合には、労働生産性が A よりも高くないといけない。今、「機械」も「食糧」も両財の生産がともに、A よりも労働生産性が 1.5 倍高いとする。それに合わせて、機械 1 台を利用するために雇用すべき労働量も、A の場合の  $\frac{2}{3}$  になっているものとする。このとき、実質賃金率は変わらずに、ちょうど蓄積できるまで蓄積できることを次のように示すことができる。

この場合、「機械」を利用するために雇用すべき労働者数は、1 台あたり (a) 人となるので、蓄積できるかぎり蓄積すると、「機械」の純生産量は (b) 台となる。

「機械」1 台の投入労働量は (c) 時間なので、「機械」をこれだけ純生産するために必要な労働量は、(d) 万時間となる。したがって、総労働時間は A のケースと同じなので、「食糧」の純生産のために投入される労働は、(e) 万時間となる。「食糧」1 食の投入労働量は (f) 時間なので、「食糧」は (g) 万食純生産される。これを

一人当たりになると(h)食になる。

このとき、労働者一人当たりの年間労働時間のうち、必要労働は(i)時間、剰余労働は(j)時間であるから、搾取率は(k)%となる。

上記、(a)～(k)にあてはまる数値を次の数値群(ア)～(ト)から一つずつ選び、その記号を記入せよ。

(ア) 1      (イ) 2      (ウ) 3      (エ) 100      (オ) 150      (カ) 200  
(キ) 300      (ク) 400      (ケ) 500      (コ) 600      (サ) 900  
(シ) 1000      (ス) 1200      (セ) 2250      (ソ) 2400      (タ) 3600  
(チ) 5400      (ツ) 1万2000      (テ) 1万6000      (ト) 2万4000

D 労働生産性も労働時間も A のケースのまま、過剰人口が逼迫するまで、蓄積できるかぎり蓄積した場合には、「機械」の純生産は(a)台なされることになる。この場合、「機械」の純生産のために必要な労働は(b)万時間となる。総労働時間は A のケースと同じなので、「食糧」の純生産のために投入される労働は、(c)万時間となる。これによって純生産される「食糧」は、(d)万食となり、労働者は、年間で一人当たり(e)食を入手する。よって、このとき、労働者一人当たりの年間労働時間のうち、必要労働は(f)時間、剰余労働は(g)時間であるから、搾取率は(h)%となる。

上記、(a)～(h)にあてはまる数値を次の数値群(ア)～(チ)から一つずつ選び、その記号を記入せよ。

(ア) 1      (イ) 2      (ウ) 3      (エ) 100      (オ) 133.33      (カ) 150  
(キ) 200      (ク) 400      (ケ) 500      (コ) 600      (サ) 800  
(シ) 1000      (ス) 1200      (セ) 1500      (ソ) 2400      (タ) 3600  
(チ) 5400

E 上記 A の状態から、B、C、D の状態になることは、何と呼ばれるか。次の(ア)～(オ)のうち、最も適切なものを一つ選んで、その記号を記入せよ。

(ア) B と C は「絶対的剰余価値生産」、D は「相対的剰余価値生産」にあたる。

- (イ) Bは「絶対的剰余価値生産」、CとDは「相対的剰余価値生産」にあたる。
- (ウ) BとDは「相対的剰余価値生産」、Cは「絶対的剰余価値生産」にあたる。
- (エ) Bは「絶対的剰余価値生産」、Cは「相対的剰余価値生産」、Dはどちらでもない。
- (オ) Bは「相対的剰余価値生産」、Cは「絶対的剰余価値生産」、Dはどちらでもない。

## II

ある星のある島では、生産手段としての「コムギ」(単位は「トン」)と、消費財としての「パン」(単位は「食」)の二種類だけの財が存在し、いずれも資本主義的生産様式のもとで生産されている。

「コムギ」生産部門では、年々、400万トンの「コムギ」と1200万時間の労働を投入して、1000万トンの「コムギ」を総生産している。「パン」部門では年々、「コムギ」部門での純生産たる「コムギ」すべてと、労働1800万時間を投入し、「パン」1800万食を生産している。実質賃金率は1時間あたり「パン」0.5食で、労働者一人当たりの年々の労働時間は1000時間だとする。このとき、次の各問いに答えよ。

A (a)この経済全体で見た場合の純生産はどれだけか。(b)この経済での剰余生産はどれだけか。次の(ア)～(エ)のうち、それぞれ最も適切なものを一つずつ選んで、その記号を記入せよ。

- (ア) 「コムギ」600万トン
- (イ) 「パン」1800万食
- (ウ) 「コムギ」600万トンと「パン」1800万食
- (エ) 「パン」300万食

B 以下の文章の(a)～(d)にあてはまる数値を、下の数値群(ア)～(シ)からそれぞれ一つずつ選んでその記号を記入せよ。

- ・「コムギ」1トンあたりの投入労働量は(a)時間である。
- ・「パン」1食あたりの投入労働量は(b)時間である。
- ・労働者一人当たりの必要労働時間は(c)時間20分である。
- ・同じく剰余労働時間は(d)時間40分である。

(ア) 1      (イ) 2      (ウ) 3      (エ) 2/3      (オ) 4/3      (カ) 5/3  
 (キ) 433      (ク) 633      (ケ) 833      (コ) 566      (サ) 366      (シ) 166

C 両部門ともに、生産の回転期間は1年とし、期首に一斉に「コムギ」を投入する。また賃金は後払いとする。このとき、年間の利潤率はどのようになるか、次の(ア)～(エ)のうち、それぞれ最も適切なものを一つ選んで、その記号を記入せよ。

- (ア) 
$$\frac{\text{生産額} - (\text{「コムギ」投入額} + \text{賃金})}{\text{「コムギ」投入額} + \text{賃金}}$$
- (イ) 
$$\frac{\text{生産額} - (\text{「コムギ」投入額} + \text{賃金})}{\text{「コムギ」投入額}}$$
- (ウ) 
$$\frac{\text{生産額} - \text{「コムギ」投入額}}{\text{「コムギ」投入額} + \text{賃金}}$$
- (エ) 
$$\frac{\text{生産額} - \text{賃金}}{\text{「コムギ」投入額}}$$

D この経済における貨幣賃金率を時給500円とする。この貨幣賃金率のもとで成り立つ生産価格・均等利潤率はどのようになるか。以下の(a)～(c)にあてはまる数値を、下の数値群からそれぞれ一つずつ選んでその記号をマークせよ。

- ・「パン」1食の価格は(a)円である。
- ・「コムギ」1トンの価格は(b)円である。
- ・均等利潤率は、(c)%である。

(ア) 1000      (イ) 1200      (ウ) 1600      (エ) 2000      (オ) 10      (カ) 25  
 (キ) 50      (ク) 75

解答欄（同じ記号を何度選んでもよい）

|    |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| I  | A-(a) | A-(b) | A-(c) | A-(d) | A-(e) | A-(f) | A-(g) | A-(h) | A-(i) | A-(j) |
|    | シ     | タ     | ツ     | セ     | サ     | ウ     | ソ     | コ     | ク     | カ     |
|    | B-(a) | B-(b) | B-(c) | B-(d) | B-(e) | B-(f) | B-(g) | B-(h) | B-(i) | B-(j) |
|    | イ     | セ     | チ     | ツ     | タ     | ス     | カ     | コ     | サ     | オ     |
| II | C-(a) | C-(b) | C-(c) | C-(d) | C-(e) | C-(f) | C-(g) | C-(h) | C-(i) | C-(j) |
|    | イ     | セ     | テ     | タ     | ソ     | イ     | ス     | カ     | ク     | コ     |
|    | C-(k) | D-(a) | D-(b) | D-(c) | D-(d) | D-(e) | D-(f) | D-(g) | D-(h) | E     |
|    | オ     | セ     | タ     | ソ     | サ     | オ     | ク     | コ     | カ     | エ     |
| II | A-(a) | A-(b) | B-(a) | B-(b) | B-(c) | B-(d) | C     | D-(a) | D-(b) | D-(c) |
|    | イ     | エ     | イ     | カ     | ケ     | シ     | イ     | ア     | イ     | カ     |